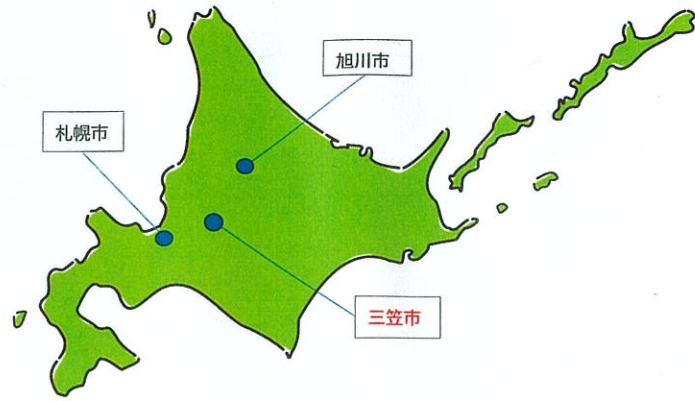


## 終わりになき図書館ジャーニー vol. 4

### 三笠市立図書館 (1/2)



ディズニーの仕事で一度訪問したことのある広島のスーツメーカー「MIKASA」とも、「三笠焼き」の「みかさ」とも違います。こちらは「三笠市」です。

札幌から三笠へは高速バスが 1 日朝夕2往復のみなので、私は今回、岩見沢で幾春別行きバスに乗り換えて 40 分ほどで三笠市中心部に行きました。昭和の時代、道内の市はどこでも鉄道が走っていました。でも三笠市、名寄市、紋別市、夕張市、歌志内市、留萌市など鉄道が廃止されています。

三笠市は明治から昭和の時代まで炭鉱で栄え、岩見沢市や夕張市に隣接する町です。2024 (令和 5) 年 4 月現在人口は約 7400 人。今日、ブランドとなっている三笠メロンを中心に、スイカや玉ねぎなどが主な特産物。最近ではワインの生産にも力を入れています。(あいにくまだ飲んでいません！)

三笠市幌内より小樽市の手宮まで鉄道を敷いて石炭を本州に輸送したのが、北海道の鉄道の始まり。1982 (明治 15) 年 11 月です。日本で3番目に早く開通した鉄道です。

1872 (明治5) 年、新橋から横浜まで日本で初めて鉄道が開通してから 10 年で北海道という開拓の土地に、鉄道が開通したというのは本当に快挙です。

1868 (明治元) 年に、幌内で燃える石「石炭」の炭層の露出面を発見、1882 (明治 15 年) 市来知 (いちきしり) 村が開村され、これが三笠市の誕生に繋がります。

北海道開拓を目的として空知集治監 (現在の刑務所) が市来知に設置され、囚人達は炭鉱など、開拓の労働力として従事させられました。

炭鉱について語るとあまりに長い解説を必要とするので、現在の三笠市が北海道の炭鉱開発のスタートということだけでも伝わればと思います。そして幌内には現在、三笠鉄道記念館が、夏場になると SL が当時の線路の一部に運転されています。道内各地で活躍した鉄道車両も展示されています。鉄道ファンであればご存知かと思いますが、是非訪れてみてください。

( 続く )

(続きは 8 月 2 日配信予定)